

平成25年度

事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

学校法人 北陸大学

目 次

I 法人の概要

1 建学の精神	1
2 人材育成の目的	1
3 設置する学校・学部・学科等	1
4 所在地	2
5 沿革の概略	2
6 組織図	3
7 役員・教職員の概要	4
8 設置する学校・学部・学科の名称及び入学定員と学生数	4

II 事業の概要

事業の概要	5
-------------	---

III 財務の概要

1 資金収支計算	14
2 消費収支計算	15
3 貸借対照表	16
4 経年比較	17

I 法人の概要

1 建学の精神

「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める」人間形成

2 人材養成の目的

『大学全体』

北陸大学は、建学の精神である「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間形成」に基づき、豊かな教養と高い専門知識を身につけ、人格の陶冶を図り、現代の社会・文化の発展と公共福祉の増進に貢献し得る人材の育成を目的とする。

『薬学部 薬学科』

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。

『未来創造学部』

グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。

『国際教養学科』

英語または中国語のコミュニケーション力を身につけ、国際感覚と豊かな教養を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

『国際マネジメント学科』

国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養および外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

3 設置する学校・学部・学科等

北陸大学

大学院	薬学研究科	薬学専攻(平成24年度から募集停止)
学部	薬学部	薬学科
	未来創造学部	国際マネジメント学科
		国際教養学科
別科	留学生別科	

4 所在地

法人本部、未来創造学部、留学生別科

〒920-1180 石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

薬学部、大学院薬学研究科

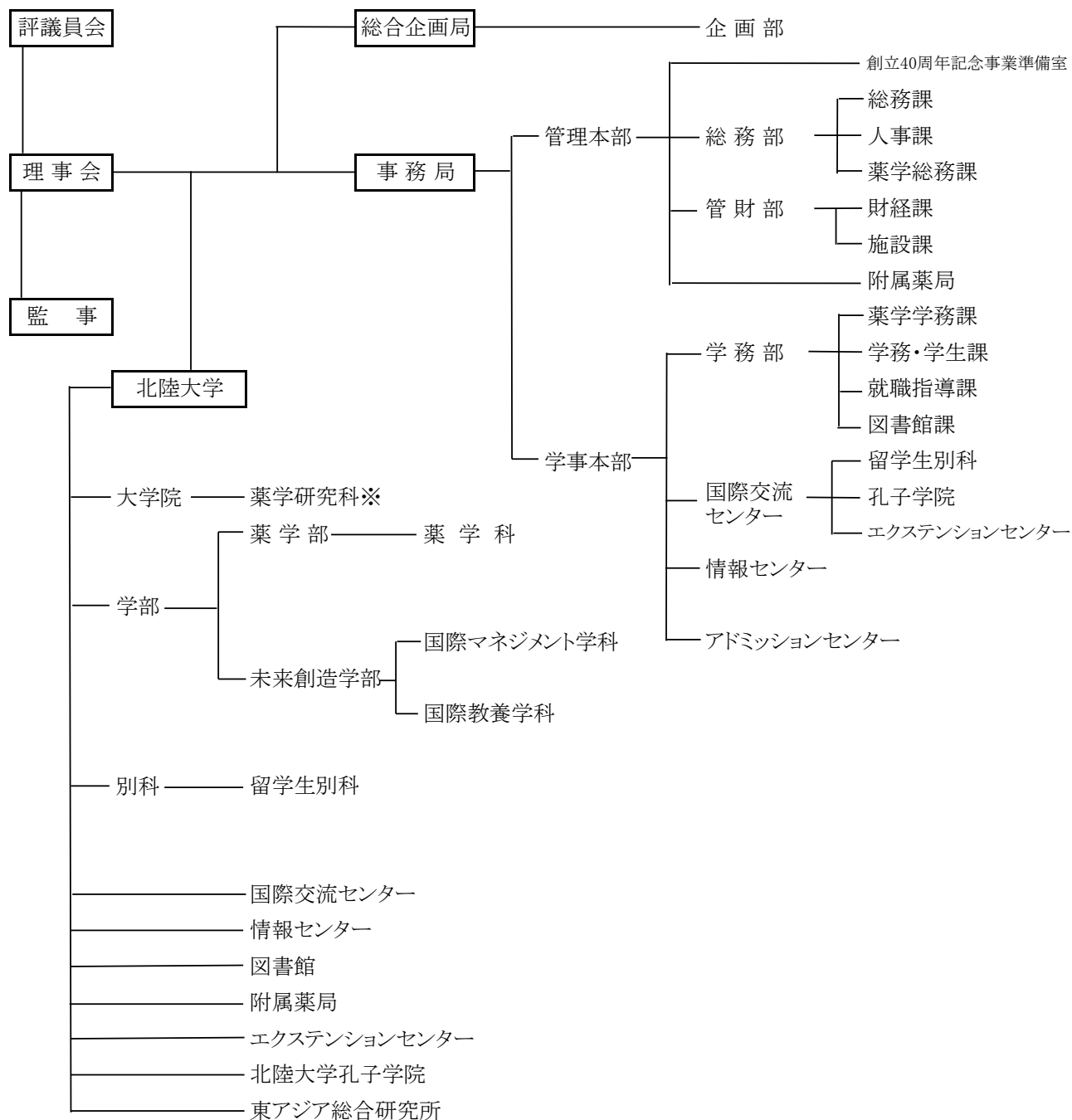
〒920-1181 石川県金沢市金川町ホ3番地

5 沿革の概略

- 昭和 50年 2月 学校法人松雲学園設置
4月 北陸大学開学 薬学部開設 薬学科(定員80人)・衛生薬学科(定員60人)計140人
- 51年 4月 薬学部定員増 薬学科(定員120人)・衛生薬学科(定員100人)計220人
- 54年 4月 大学院薬学研究科修士課程開設(定員20人)
- 58年 4月 大学院薬学研究科博士課程開設(定員5人)
- 60年 7月 学校法人北陸大学に法人名称変更
- 62年 4月 外国語学部開設 英米語学科(定員120人)・中国語学科(定員40人)計160人
- 平成 2年 4月 外国語学部臨時定員増 英米語学科(定員165人)・中国語学科(定員55人)計220人
- 4年 4月 法学部開設 政治学科(定員100人・臨時定員50人)・法律学科(定員100人・臨時定員50人)計300人
- 6年 4月 留学生別科開設(定員30人)
- 7年 4月 外国語学部英米語学科編入学定員設定(定員35人)
- 13年 4月 薬学部定員増 薬学科(定員140人)・衛生薬学科(定員140人)計280人
外国語学部定員減 英米語学科(定員120人・臨時定員15人)・中国語学科(定員40人)計175人
法学部定員減 政治学科(定員100人・臨時定員15人)・法律学科(定員120人・臨時定員15人)計250人
外国語学部中国語学科編入学定員設定(定員10人)
- 15年 4月 法学部編入学定員設定 政治学科(定員40人)・法律学科(定員80人)
留学生別科定員増(定員70人)
- 16年 4月 外国語学部及び法学部の未来創造学部への改組・入学定員の変更
薬学部定員増 薬学科(定員230人)・衛生薬学科(定員230人)計460人
未来創造学部開設 未来社会創造学科(定員100人・編入学定員120人)
・未来文化創造学科(定員100人・編入学定員45人)計365人
- 18年 4月 6年制薬学部設置に伴う入学定員及び修業年限の変更
薬学部薬学科(入学定員306人)修業年限6年
- 20年 4月 未来創造学部 新学科設置
国際教養学科(定員100人・編入学定員45人)・国際マネジメント学科(定員100人・編入学定員120人)計365人

6 組織図

平成26年3月31日現在



※ 大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程は、平成24年度から募集停止している。

7 役員・教職員の概要（平成26年3月31日現在）

【役員】

理事	8人
監事	2人

【評議員】

評議員	22人
-----	-----

【教職員(専任)】

教員	120人
職員	67人

8 設置する学校・学部・学科の名称及び入学定員と学生数（平成25年5月1日現在）

北陸大学

大学院

(単位 人)

研究科	専攻	課程	入学定員	収容定員	学生数
薬学研究科	薬学	博士後期	5	15	1

学部

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
薬学部	薬学科	306	1,836	1,061
未来創造学部 ※	国際マネジメント学科	100	640	813
	国際教養学科	100	490	268
	計	200	1,130	1,081
	計	506	2,966	2,142

別科

別科	入学定員	収容定員	学生数
留学生別科	70	70	44

※未来創造学部に編入学定員を設定

(国際マネジメント学科120人、国際教養学科45人)

Ⅱ 事業の概要

当期に行われた事業の概要は、以下のとおりである。

1. 学生募集に関する事項

(1) 本学の特色を明確かつ効果的に伝える積極的・集中的な活動

一般層に、より広く本学の特色を周知するため、テレビCM、新聞広告等マスメディアの露出を大幅に増やした。テレビCMは当初北陸3県及び沖縄で7月から10月まで放映した後、石川・富山に絞って1月下旬まで放映期間を延長し、オープンキャンパス等のイベントや入試・奨学金制度、新設の公務員養成塾について積極的・集中的に伝えた。新聞広告も両県で出稿を増やした。また、未来創造学部教育実績を特集したリーフレット「REAL」を新たに制作し配付した。広告媒体は、従来の内容に加え、実社会で活躍する卒業生や学修に励む在学生の姿をより強く打ち出す形に切り替えた。

(2) 重点地域への持続的な活動

志願・入学実績や資料請求状況等を考慮し、全国10地区(石川、富山、福井、北海道、沖縄、新潟、長野、愛知、岐阜、静岡)を重点地域に設定し、広報活動を行った。これらの地域では、従来に引き続き高校訪問を中心に据えながら、各高校内での進学説明会や出張講義、大学見学会や模擬講義・実習、勉強合宿の受入れを行い、高等学校との連携推進に努めた。最重点地域となる石川、富山ではテレビCMや主要新聞への広告出稿量を増やし、地元出身学生やOBの活躍を伝えた。また金沢駅構内への看板掲出や本学ロゴをあしらったラッピングバスの運行、公道上の広告(シテイスケープ)等により学生募集だけでなく大学全般の広報活動を行い、地元からの信用度を高めるよう努めた。

(3) ホームページ等を利用した大学情報発信の充実

大学に係るすべての情報をホームページに集約するとともに、アクセス数が年間で最も多くなる7月に合わせトップページのリニューアルを行う等、随時階層を整備しながらタイムリーな情報更新に当たった。大学の動きをリアルタイムで伝えるため、ニュースの更新頻度を高め、動画サイトにおいてはより学生の生の声を伝えるべく登場者を増やし、教育成果としての学生の活躍を伝える広報展開と連動した情報発信を進めた。また、受験生に向けては受験生サイトの整備に加え、オープンキャンパス情報の充実やイベント参加申し込みフォームの新設等により受験情報の効率的な提供と利便化を推進した結果、受験生サイトへの年間アクセス件数は前年度に比べて3,000件以上増加した。

2. 全学基盤教育に関する事項

(1) 教育現場における学生の把握(学習達成度、生活状況等)

担任教員指導指針を作成し、担任教員の役割を明確にした上で、年度当初・前期終了時及び年度末のほか、適宜学生面談を行い状況把握に努めている。面談では、学生各自の目標達成に向けて学生支援システムを活用しながら、学生の成績、生活諸問題について指導・助言を行っている。薬学部では留年生や前期留年確定者については、担任教員の要請により教務委員による面談を行っているほか、各学年に学年主任を配置し、特に問題ある学生については担任教員のみならず、薬学部長はじめキャンパス相談室等、関係教員・関

係諸機関が連携を取りながら問題解決に当たっている。

未来創造学部でも、年 4 回の面談で学生の学習面・生活面のヒアリングや助言を行い、年度の到達目標や学習到達度を定め、心身共に充実できるようなサポート体制を取った。

(2) 実学教育の実施

実践力と人間力を兼ね備えた人材養成のため「実学教育」を行っている。薬学部では、『人が生きている証＝バイタルサイン』を感じる「実学教育」を目標に、1 年次から、病院・薬局・ドラッグストア・介護施設での「早期体験学習」や「不自由体験」「心肺蘇生法」などの知識や技能を習得している。3 年次では姉妹校である金沢医科大学病院での人体解剖見学実習、5 年次では病院及び薬局で各 2.5 カ月間の長期にわたる実務実習を通じて実学教育を行っている。

未来創造学部では、国際人養成の一環として 1 年次生を対象に中国姉妹校にて、語学や体験型授業、日中の異文化を体験する中国研修を実施している。平成 25 年度は、12 月中旬からアモイ大学で約 2 週間の研修を実施し、32 名の学生が参加した。また、中国語・日本語のスピーチコンテストを実施し、各部門においては計 38 名（中国語 26 名、日本語 12 名）の学生が出場した。語学講義の中で導入しているプロジェクトの成果を学生達が発表することにより、他の学生の模範となることで相互向上の一助となった。4 年次生では各々の研究テーマに沿った成果品の作成を義務付けており、その成果を卒業研究発表会で教員・後輩に披露している。今年度は分野ごとの発表でこれまで学習した成果をプレゼンテーションした。

(3) ゼミ教育及び担任制度の改善・改革・強化

薬学部では 1・2 年次において「薬学基礎ゼミ」（Ⅰ及びⅡ）を開講し、6 年間の薬学部教育を受けるに当たっての最低限必要なアカデミックスキルを学んでいる。「薬学基礎ゼミ」担当教員は担任教員を兼ねており、学生指導上少なくとも毎週 1 回の授業で顔を合わせることは大変有効である。また学年主任の下、定期的に担任連絡会を行い、情報共有及びゼミの進捗状況確認を行っている。

未来創造学部では、3 年次ゼミ並びに 4 年次卒業研究での活動は基本的にゼミ担当教員専門分野の演習的学修活動である。ゼミによっては、学外での研修を行う場合もあり、山中温泉での文化資源調査（小林ゼミ、長谷川ゼミ）及び山中温泉プロジェクト（井上ゼミ）、早稲田大学との合同合宿（大楽ゼミ）、原子力発電所施設見学（榎本ゼミ）等、平成 25 年度は延べ 22 件の学外活動があった。その他、留学生に日本、タイを理解してもらう観光研修（武田ゼミ、金澤ゼミ）、卒業研究合宿（長谷川ゼミ）等を行った。

(4) アルベスシステム等の情報教育の充実

インターネット上で時間と場所を選ばず講義を視聴できるシステム「アルベス」の利用促進の為、学生にとって魅力あるコンテンツの制作を行った。教員との連携を強化し、アルベスの利用を前提とした授業の構築や、学生に効果的な授業構成となるようマルチメディア機器の利用環境構築を実施した。特に今年度は、オンデマンドシステムサーバーや学内に設置しているアルベス閲覧用端末の更新を実施し、学生の反復学習を推進する環境の整備を実施した。更に海外提携大学との遠隔講義を実施し、入学前教育の一助としている。

(5) 姉妹校との連携強化と海外研修の推進

薬学部では 11 月に 3 大学シンポジウムが韓国・慶熙大学校で開催され、本学薬学部教員 3 名が発表を行った。未来創造学部では今年度から海外姉妹校との学術交流として 9 月

と10月に中国の姉妹校・友好校6校で延べ5名の未来創造学部教員が講演を行った。また、姉妹校・友好校の実務担当者の本学に対する理解・関係を深めることを目的に、実務者研修会を7月に実施した。海外研修は、長期(1年)・ESIC(English Study in China; 中国英語留学)・セメスター(半年)・短期(1カ月)留学をはじめ、中国研修や各種グローバルプログラム、平成遣中使等を実施した。総勢120名の学生が研修に参加し、海外で貴重な体験を得て、このうち、「3大学合同研修・韓国班」、「アメリカ班」、「医療漢方班」は日本学生支援機構の海外留学支援制度プログラムとして認定され実施した。また、新規に海外の大学等との協定締結や留学受入れ先を調査するため、韓国とインドネシアを訪問し、韓国・祥明大学校と平成26年2月14日に姉妹校協定を締結した。インドネシアでは、2つの大学と協定締結に向け協議を進めている。

3. 学部教育に関する事項

【薬学部】

(1) 基礎教育の強化

新入生全員に、化学、生物、物理の履修歴を確認すると同時に、「基礎学力確認試験」を行い、その結果をもとに習熟度別クラス編成を行い、学生の基礎学力に応じた授業を実施している。また、1・2年次で「薬学基礎ゼミⅠ・Ⅱ」を設け、担任教員が学習方法や勉学に取り組む姿勢についても指導を行った。

(2) 東洋医薬学教育プログラム

従来1年次生を対象に実施していた中国東洋医薬学研修は、プログラムの再検討を行った結果、平成26年度以降、2年次生を対象としたプログラムへ変更することとし、平成25年度は中止した。中国現地での漢方薬局・薬用植物園・生薬市場等の見学をはじめ、実際の医療現場における東洋医薬学の学習や体験を通して、興味・関心を抱かせ、2年次の東洋医学、和漢薬学、3年次の漢方処方学、4年次の漢方概論と、体系的に学ばせることにより、5年次の東洋医薬学コースへと繋げていき、本学薬学部教育の特色の一つでもある東洋医薬学に精通した学生を育成することとしている。

(3) 臨床薬学教育の実践

薬学部では臨床の実践的な能力を持つ医療人としての薬剤師を育成するため、医療関係者からの実践講義やMTR(Medical Training Room; 模擬病室)でのバイタルサイン確認、注射剤投与・採血体験や医療面接技法などを行っている。更に人体解剖模型を用いた教育や金沢医科大学での人体解剖見学学習を実施している。その他「リベラルアールⅠ」等において、医療従事者や薬害被害者による臨場感溢れる特別講義を実施することにより医療人としての人間性と自覚を育成している。

(4) 薬学共用試験対策

CBT(Computer-Based Testing; 知識及び問題解決能力を評価する客観試験)教育は、4年次の4月から10月までの期間は、学力の底上げを目的にパソコンでのトレーニングを義務付けるとともに、領域別の講義により、学力の向上を図っており、11月から本試験、再試験までの期間は、集中講義及び個別指導を行っている。OSCE(Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験)教育については技能や態度の臨床能力向上に向け、実務事前学習で多くの教員やTA(ティーチング・アシスタント)からきめ細かい

実習指導を実施している。また、今年度は共用試験合格者に、実務実習に向けて直前学習を目的としたプレ実務実習を導入した。

(5) 5年次生実務実習

病院実習は、学生全員が3期に分かれて金沢医科大学病院で行った。実習期間中は、薬学部教員が交代で駐在したほか、教員が3回訪問し、金沢医科大学病院の指導薬剤師と情報交換しながら実習生のケアを行った。薬局については、過去3年間の実績を踏まえて受入薬局を評価し、北陸調整機構と連携して実習先を決定した。教員が3回以上訪問し、実習生の状況把握及び実習先との関係強化に努めた。実習前には、薬局との意見交換会を行い共通意識をもって実習を実施した。また、指導薬剤師の養成のために、北陸地区調整機構、薬剤師会及び病院薬剤師会等と連携して、研修会（ワークショップ）を開催し、指導薬剤師及び認定薬剤師の育成を行った。

(6) 薬剤師国家試験対策

平成26年2月までに6年次生全員が薬剤師国家試験に合格できる学力に到達することを目標として、学生の進捗度に合わせた教育を行い、月1回の実力試験により進捗度を確認するとともに、予備校による特別講義も導入したが結果は伴わなかった。再留年生で再試験不合格となった者については、教育的配慮により、新たに単位認定試験を導入し、3月末での卒業を認定した。

【未来創造学部】

(7) 実践的な英語・中国語教育の強化

英語教育は、履修者約430名を能力別に小人数のクラスに編成（1クラス10～20名程度）し、細かい指導をしている。統一のレベル別教科書を使用し、学年を追ってレベルアップする内容になっている。能力の測定には、国際教養学科はTOEIC、国際マネジメント学科はCASECを用い、履修者全員を対象に、TOEIC IP 及びCASECを年2回、学内模試を年2回実施した。中国語は履修者数が全学年で約120名程度であり、個人の能力にあった指導をしている。1年次中国研修参加により中国並びに中国語への関心が高まる傾向にある。本学が委託会場になっている中国語検定は年3回延べ140名（内本学学生延べ47名）が受験している。例年12月にスピーチコンテストを実施しており、外国語で意見を発表する機会を設けている。英語、中国語ともに科目と連動して全員が原稿を作成し応募することを義務づけた。国際教養学科の学生は半年から1年の留学に参加する者が多く、帰国後は語学能力、プレゼンテーション能力共に向上している。

(8) 留学生の日本語能力の強化

日本語の授業は、プレースメントテストの結果をもとに学生それぞれの日本語レベルを配慮してきめ細かく行っている。授業内容はアウトプット・インプット、資格試験のためのものなど、授業目的を明確にし、日本語能力の向上に繋がるものとした。とりわけ、プレゼンテーションを取り入れた授業は、留学生の日本語の実践的なコミュニケーション能力の向上に有益であった。また、作文のための授業では、大学生にふさわしいレポート作成のために有益だったと言える。留学生の日本語能力試験対策として、後期の第5時限に約2カ月間にわたって日本語集中講義を実施した。

(9) スポーツコースの充実

スポーツコースは、クーバー・コーチング・ジャパンでの指導者資格を取得できるコースで、夏季集中実践指導では近隣の小中学生延べ300名を集め、指導の研修を行った。近年、入学者数が30名程度であるのに対し、学年進行につれてクーバー科目の受講を停止する学生が増加している（平成25年度の受講生数は1年24名、2年11名、3年9名、4年14名、2～4年次は入学時より半減）。今年度はクーバー・コーチング・ジャパンに3名が就職したが、スポーツコース＝クーバーという本学のカリキュラムが学生のニーズに合っているか検討が必要な時期に来ている。

(10) 国際社会・経済・文化研究プログラムの充実

今年度は未来創造学部学生32名が、12月に厦門（アモイ）大学における中国研修「中国の社会・経済・文化研究プログラム」に参加した。実践的な中国語・英語をはじめ、中国歴史・文化の学修や、日系企業を訪問して研修を行った。また、グローバルプログラムではアメリカ班（14名）「学生主体型英語圏フィールドワーク」、韓国・慶熙班（9名）「韓国のグローバル戦略と日韓関係に関する研究プログラム」、台湾班（11名）「台湾のグローバル化と日台関係に関する研究プログラム」を実施し、平成遣中使として「歴史・文化班」（8名）を編成し、実施した。

(11) 海外留学の充実

今年度はアメリカ・イギリス・オーストラリア・ニュージーランド・中国等の姉妹校・友好校で、計20名の学生が長期・ESIC・セメスター・短期留学を体験した。ESICでは、平成24年9月から平成25年7月まで1名、平成25年9月から平成26年2月まで1名が北京語言大学英語学部留学し、同大学で英語専攻の中国人学生と共に英語、中国語を学んだ。最近では、1年次生対象の中国研修を実施しているためESIC参加者数は減少しているが、中国研修での成果を感じた学生がリピーターとして参加する傾向がある。中国でハイレベルの英語専攻の現地学生の中に入るには相当の英語力が必要で、参加者には覚悟と勇気が求められるが、帰国後の効果は歴然と出る。英語力と中国力が間違いなく伸びており、自信にあふれた成長が見える。今後も本学の特色ある留学プログラムとして継続して実施する。

4. 学生生活に関する事項

(1) 生活習慣の改善の推進

「早寝、早起き、朝ご飯」を習慣化することで規則正しい生活習慣を身につける。特に、朝食を摂ることを習慣化するために、学食で朝食を100円で提供し食育面から学生を支援する。1日の始まり段階から脳の活性化を促し、学生生活をメリハリのある充実したものにする。今年度は、薬学部、未来創造学部合わせて、年間36,000食（月平均3,000食）の利用があり、朝食が正しい生活習慣の形成にいかに関与しているかを周知することができた。また、学生の経済的負担を軽減することで、気軽に朝食が摂れる習慣を徹底できたことは非常に意義深い。今後も朝の始まりから有意義な学業生活のスタートが切れるように支援を継続する。

(2) 生活指導の強化

留学生に対し入学前にガイダンスを実施し、日本の文化・風習・習慣、アルバイトに係る注意点、居住に係る問題やゴミの分別、交通安全などを指導した。出席や成績に問題の

ある学生については個別面談を行い状況把握に努めている。5月下旬から6月中旬、11月下旬から12月上旬にかけて年2回、留学生524名を対象に学習面（出席状況、GPA、日本語能力試験）や生活面など（資格外活動の有無、アルバイト内容・時間、運転免許の有無）詳細な質問項目を基に留学生専門委員会、学務・学生課、財經課、就職指導課、国際交流センター職員で面談を行い、個々の状況を把握し、指導が必要な留学生に対しては適切な指導に努めた。重大な事件が起こった場合は、留学生に対し、ガイダンス並びに掲示にて注意喚起を行った。

（3）課外活動の支援

課外活動の活性化を図るため、登録費や参加費、合宿費や全国大会出場補助、定期演奏会会場利用料などの費用面での支援や、学内施設・環境の充実を図り、課外活動に積極的に参加できる環境を整えた。強化指定クラブとして、サッカー部（男子・女子）、アイスホッケー部、柔道部、硬式野球部、卓球部、自転車競技部があり、アイスホッケー部、サッカー部（男子・女子）、柔道部、自転車競技部が全日本学生選手権（インカレ）出場を果たした。その他に、個人としては柔道部、卓球部、トランポリン部もインカレ出場選手が出ており、強化の成果が表れてきている。学生のクラブへの取り組み状況としては、約40%の学生がクラブに所属しており、学部別の比率では薬学部生が49%、未来創造学部生が33%となっている。文化系クラブは学外の様々な場所へ出向き慰問演奏会やコンサートを実施するなど積極的に活動している。

（4）留学生との交流の促進

4月には花見の会を開催し地域住民との交流を図り、日本文化体験活動として5月に春季研修、7月にビーチデー、10月に秋季研修、1月に春節を祝う会を開催し、日本人学生との交流を行った。また、8月から9月にかけて各種グローバルプログラムでは日本人学生と海外研修を通じて交流を深めた。8月と2月に実施した留学生別科の短期受入れプログラムでは多くの日本人学生がボランティアスタッフとして参加し、互いの文化や考え方の違いを学びとり、相互理解を深め、以て国際交流の輪を広げることができた。

5. 進路指導に関する事項

（1）就職活動の支援

薬学部では、1年次から早期体験学習及び各分野で活躍する卒業生、医療関係者を招いての講演会を通じ、早い段階で実際の医療現場を知ることによって職業意識、薬剤師を志す目的意識の醸成を図っている。ガイダンスや就職講座の実施、学内での合同企業説明会の開催、6年次生の4月には病院対象の仕事研究会を開催した。その結果、好調な薬剤師の就職環境も追い風として、順調な就職内定状況となった。

未来創造学部では、個々の希望により近い成果を上げるための就職活動の支援を行った。3年次前期にはインターンシップを行い、後期には実践的な就職対策講座として、自己分析、自己PR、ビジネスマナー、履歴書・エントリー作成、面接対策、筆記試験対策、メイクアップ、新聞の読み方、就職合宿等を行った。企業の採用担当者を招き、仕事内容、採用、福利厚生、他会社全体の説明していただく仕事研究講座により、個々の企業に対する理解を深め、スチューデントアドバイザーによる実体験をもとに就職活動全般の情報提供を行った。

(2) 大学院等の進学支援

未来創造学部の編入留学生において、近年国内外の大学院進学希望が増えていることに鑑み、大学院の受験・合格に向けての支援を行った。教員や就職委員との連携を図り、年2回の大学院進学ガイダンスの中で、卒業生・在学生体験談発表会・座談会等を通して、情報提供を行い、成果を上げた。

(3) その他進路に関すること

就職活動における筆記試験においては、一般教養、経済、時事等求められる知識量は増大する傾向となっている。これらに鑑み、学生一人ひとりの興味や将来の希望等に応じた個人学習を定着させ、学部カリキュラム以外の多様な学習機会の提供を行った。併せて、インターンシップ等、実社会と連動した体験型学習を実施した。

6. 施設・設備に関する事項

(1) 教育環境の整備

学生に安全で充実した教育環境を提供できるように各キャンパスの整備事業を計画的に進めている。今年度は、太陽が丘キャンパスでは、2号棟の空調熱源設備の省エネ型への更新工事及び屋上防水の改修工事等を行った。薬学キャンパスでは、本部棟及び学生会館の屋上防水改修工事、通学路の舗装修繕工事等を行った。更に、両キャンパスにおいて学生の能動的学習のため、文部科学省の平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金により、既存演習室等を改修してアクティブラーニング教室(AL教室)を設置した。また、消防法改正に伴う消防用設備の安全試験の実施及び一部設備の更新を行った。男子学生寮の松雲会館においては、寮室、リビングの整備及び一部防水対策工事を行った。

(2) 情報教育設備の整備

学生の履修、学習状況、成績、生活、指導歴などの成果、活動記録の情報一元化、及び学生による授業評価を逐次行うことができるようWebシステムの構築を実施した。また、医療におけるITの利用が必要不可欠となっている状況に鑑み、薬学教育の中で最新の情報を取得できるよう、ネット環境の整備を行った。更に、近年、電子カルテやレセプトオンライン化によりチーム医療が大きく進展し、診療報酬と調剤報酬の突合が可能となった。薬学部での医療現場を想定した実習においても、模擬処方箋による情報提供やレセプト請求を体験する必要がある、この最新医療ITを利用できる環境を整備した。また、文部科学省の平成25年度私立学校施設整備費補助金(私立学校教育研究装置等施設整備費(私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費))のICT活用推進事業により、今年度は薬学部実習での模擬処方箋に基づいた薬剤情報提供文書の作成及び服薬指導、レセプト作成の指導環境強化を実施した。PTR(Pharmacy Training Room; 模擬薬局)において、処方箋発行・調剤・調剤監査の一連の作業の中で、並行して薬剤情報提供の文章作成、服薬指導ができる環境の強化を行った。また、てんかん、気管支喘息、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)を対象疾患とし、フェニトイン、テオフィリン、バンコマイシンを投与対象薬としてTDM(治療薬物モニタリング: Therapeutic Drug Monitoring)を実施するために、体内動態の解析を利用可能とする環境の強化を実施した。更に、アルベスを利用した授業のコンテンツ配信による反復学習環境の向上、マルチメディア機器を利用しより効果的な授業を実施できる環境を整備した。

7. 予算の効率的な執行及び削減に関する事項

(1) エコキャンパスに向けた取り組み

エネルギーの使用の合理化に関する法律（改正省エネ法）に基づき、エネルギー消費原単位を年平均 1%以上低減することを目的として事業を進めている。ハード面では、太陽が丘キャンパスでは 2 号棟の空調熱源設備の省エネ型への改修工事を行った他、図書館の空調設備の夏季間欠運転を行いピークカットによる節電を実施した。薬学キャンパスでは実験科学棟に自家発電機を設置して冬季最大電力のピークカットを引き続き行った。ソフト面では、夏季クールビスを初めて行った他、窓の小まめな開閉、ブラインドや簾等の設置、エアコン設定温度の徹底等による節電を実施した。また、センサーによる照明点灯時間の短縮、講義室の集約等を行った。

(2) 在学時の奨学金等の見直し

今年度は、入学者全員に対し薬学部 60 万円、未来創造学部 30 万円の授業料減免を実施した。これに伴い、地域奨学金・家族入学奨励金・高大連携奨学金、未来創造学部の成績優秀者奨学金制度を廃止した。リーダー養成奨学金制度は引き続き実施し、対象者は、薬学部入学生 290 名のうち 55 名、未来創造学部入学生 179 名のうち 6 名となった。スポーツ奨学生は強化クラブごとに金額上限を設定し、対象学生を認定した。在学生に対する奨学金は、各種減免制度の充実に伴い、成績優秀者奨学金で選定人数を削減する一方で、学生のモチベーションを向上するため、特別奨励金制度を導入し、学業で成果があった学生に対して奨学金を支給した。資格取得奨学金は、在学期間中の授業料相当額を支給するⅠ種を獲得した学生が日本人学生 3 名、留学生 7 名に上った。平成 26 年度入学生からは、リーダー養成奨学金の成績基準、継続要件を厳格化した。今年度は、経済的に就学困難な留学生に対する学費減免を含めて、奨学金支出の総額は約 9 億 4 千万円となった。

(3) 担当科目や実務内容等の実績に応じた人員配置

学外講師の時間単価を近隣大学等の実態に合わせ減額するとともに、類似科目統合等を実施したうえで、科目数に応じた学外講師の数とした。キャンパス相談室は、これまでの相談者実績などを総合的に確認し、学生の相談時間や開室日の見直しを進めた。それとともに情報の集約と共有の円滑化を目指し、複数名との個別雇用契約から専門機関 1 社との業務委託契約に変更し、一定の成果を得た。図書館やコンピュータ教室においても学生の利用状況を把握するとともに、教務スケジュールをもとに管理部署と調整の上、開館時間、開室時間を設定し、その実態に応じた勤務体系、人数とした。

(4) 効果的な広報活動

効率的な広報活動を行うため、テレビ CM や新聞広告についてはイベント及び入学者選抜に合わせて出稿時期を集約させ、内容や出願期間等の情報に加え、奨学金制度や新設の公務員養成塾の PR を行った。また、広報重点地区を全国 10 地区（石川、富山、福井、北海道、沖縄、新潟、長野、愛知、岐阜、静岡）に絞り込み、複数回の高校訪問を行った。最重点の北陸 3 県では、各高校内での進学説明会や出張講義、大学見学会や模擬講義・実習の受入れを通じ連携を強化するよう努めた。更に、ホームページでのニュースの更新頻度を高め、動画サイトでは学生の生の声を頻繁に掲載することで、タイムリーな情報発信に努めた。本学のホームページへの年間アクセス件数は約 4,500 件増加した。

8. その他の事項

(1) 改組・改編計画等の立案

本学が地域の人々の健康維持・増進、疾病予防に更に貢献していくため、また、薬学部の教育の質向上及び収容定員未充足に対応するため、医療・栄養系統の新学部設置を検討し、これに係る設置認可申請作業、新学部の教育を行う建物の基本設計及びキャンパス将来計画等に着手した。また、未来創造学部国際教養学科の定員充足に関する諸施策について検討・実施した。

(2) 第三者評価の準備

平成 26 年度に 2 回目の認証評価を受審するにあたり、大学評価セミナー（平成 25 年 6 月開催）、受審大学に対して開催される責任者説明会及び自己評価担当者説明会（平成 25 年 9 月開催）に其々関係する役員、教職員が参加し、認証評価に関する理解を深めるとともに、学内における受審体制を確定し、自己点検評価書（案）の作成、エビデンスリストの作成の準備を行った。

(3) 創立 40 周年記念事業の準備

平成 27 年に創立 40 周年を迎えるにあたり、平成 25 年度後半より記念事業の取り組みを開始した。平成 25 年 12 月 14 日には、通常は一般公開していない教養別館の「五人扶持の松」を限定公開する特別拝観茶会を催した。五人扶持の松は、加賀藩 13 代藩主前田斉泰が所望して城内に運ぼうとしたものの断念し、「天下に得難い松であるから」と、五人扶持を与えたという逸話が残っている。この教養別館は本学創設者の故林屋亀次郎先生のお邸宅で、寄贈を受けた本学が管理しているものである。市民の皆様には茶会を通して、本学の歴史にも理解を深めていただき、創立 40 周年に向けた機運を盛り上げる機会となった。

Ⅲ 財務の概要

1 資金収支計算

資金収支総括表

(収入の部)

(単位 百万円)

科 目	予 算	決 算	差異
学生生徒等納付金収入	3,823	3,805	18
手数料収入	24	27	△ 3
寄付金収入	0	8	△ 8
補助金収入	332	396	△ 64
資産運用収入	159	166	△ 7
資産売却収入	1,000	1,052	△ 52
事業収入	8	11	△ 3
雑収入	223	256	△ 33
前受金収入	475	570	△ 95
その他の収入	174	264	△ 90
資金収入調整勘定	△ 729	△ 869	140
当年度資金収入合計	5,489	5,686	△ 197
前年度繰越支払資金	3,000	3,238	△ 238
収入の部合計	8,489	8,924	△ 435

当年度資金収入合計は、補助金収入や資産運用収入の増加等により197百万円予算を上回りました。

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	差異
人件費支出	2,260	2,166	94
教育研究経費支出	1,930	1,824	106
管理経費支出	423	355	68
施設関係支出	41	40	1
設備関係支出	231	227	4
資産運用支出	1,926	1,926	0
その他の支出	98	110	△ 12
予備費	64	0	64
資金支出調整勘定	△ 50	△ 74	24
当年度資金支出合計	6,923	6,574	349
次年度繰越支払資金	1,566	2,350	△ 784
支出の部合計	8,489	8,924	△ 435

当年度資金支出合計は、経費及び予備費の未使用等により349百万円予算を下回りました。

次年度繰越支払資金は、784百万円予算を上回りました。

当年度資金収支差額	△ 1,434	△ 888	△ 546
-----------	---------	-------	-------

(注) 上記の表の金額は、百万円未満を四捨五入する。なお、以下の表についても同様である。

2 消費収支計算

消費収支総括表

(消費収入の部)

(単位 百万円)

科 目	予 算	決 算	差異
学 生 生 徒 等 納 付 金	3,823	3,805	18
手 数 料	24	27	△ 3
寄 付 金	0	20	△ 20
補 助 金	332	396	△ 64
資 産 運 用 収 入	159	166	△ 7
資 産 売 却 差 額	0	252	△ 252
事 業 収 入	8	11	△ 3
雑 収 入	223	256	△ 33
帰 属 収 入 合 計	4,569	4,933	△ 364
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 365	△ 335	△ 30
消 費 収 入 の 部 合 計	4,204	4,598	△ 394

消費収入の部合計は、補助金や資産運用収入の増加等により394百万円予算を上回りました。

(消費支出の部)

科 目	予 算	決 算	差異
人 件 費	2,220	2,169	51
教 育 研 究 経 費	2,479	2,349	130
(内 減 価 償 却 額)	550	524	26
管 理 経 費	523	451	72
(内 減 価 償 却 額)	100	96	4
資 産 処 分 差 額	8	7	1
徴収不能引当金等繰入額	10	8	2
予 備 費	292	0	292
消 費 支 出 の 部 合 計	5,532	4,984	548

経費及び予備費の未使用等により、消費支出の部の合計は548百万円予算を下回りました。

帰 属 収 支 差 額	△ 963	△ 51	△ 912
当 年 度 消 費 収 支 差 額	△ 1,328	△ 386	
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	1,501	557	
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	2,829	943	

(注)帰属収支差額＝帰属収入－消費支出

上記の結果、帰属収支差額は912百万円予算より改善しました。また、当年度消費収支差額は386百万円の支出超過となりました。

3 貸借対照表

貸借対照表

資産の部

(単位 百万円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	32,467	31,721	746
	有形固定資産	16,427	16,772	△ 345
	その他の固定資産	16,040	14,949	1,091
	流動資産	2,922	3,669	△ 747
合 計		35,389	35,390	△ 1

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	995	992	3
	流動負債	662	615	47
	計	1,657	1,607	50
基本金		34,675	34,340	335
消費収支差額		△ 943	△ 557	△ 386
合 計		35,389	35,390	△ 1

正味資産	33,732	33,783	△ 51
減価償却累計額	11,199	10,714	485

正味財産は、
前年度より51
百万円減少し
ました。

正味資産＝資産－負債（＝基本金＋消費収支差額）

4 経年比較

大科目又は主な科目について、5年間の推移を記載します。

【資金収支計算書】

(単位:千円)

収入の部	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
学生生徒等納付金収入	4,061,572	4,046,975	4,165,440	3,929,685	3,805,031
手数料収入	24,722	21,235	21,390	27,127	26,699
寄付金収入	15,500	9,300	10,100	7,100	8,000
補助金収入	590,886	356,475	420,240	473,384	396,497
資産運用収入	220,266	248,653	238,144	202,123	166,281
資産売却収入	800,112	500,209	3,934,274	3,068,749	1,051,661
事業収入	16,608	10,773	11,918	13,448	11,070
雑収入	105,730	88,809	159,697	160,116	256,267
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	707,559	476,483	403,253	530,943	569,963
その他の収入	363,596	193,090	230,497	166,463	264,029
資金収入調整勘定	△ 834,537	△ 825,980	△ 642,922	△ 699,094	△ 869,457
前年度繰越支払資金	2,127,634	2,265,935	1,281,744	2,821,693	3,237,749
収入の部合計	8,199,648	7,391,957	10,233,775	10,701,737	8,923,790

支出の部	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人件費支出	2,206,234	2,184,150	2,170,136	1,966,158	2,166,333
教育研究経費支出	1,567,850	1,786,300	1,792,303	1,650,489	1,823,649
管理経費支出	661,214	705,253	694,759	432,266	354,916
借入金等返済支出	6,780	4,300	1,050	0	0
施設関係支出	83,746	36,852	43,845	30,958	40,496
設備関係支出	181,552	86,460	75,706	102,765	227,026
資産運用支出	1,105,683	1,203,865	2,605,992	3,246,070	1,925,658
その他の支出	231,917	184,085	121,390	126,750	109,888
資金支出調整勘定	△ 111,263	△ 81,052	△ 93,099	△ 91,468	△ 74,303
次年度繰越支払資金	2,265,935	1,281,744	2,821,693	3,237,749	2,350,127
支出の部合計	8,199,648	7,391,957	10,233,775	10,701,737	8,923,790

【消費収支計算書】

(単位:千円)

消費収入の部	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
学生生徒等納付金	4,061,572	4,046,975	4,165,440	3,929,685	3,805,031
手数料	24,722	21,235	21,390	27,127	26,699
寄付金	24,522	16,850	13,247	18,759	20,116
補助金	590,886	356,475	420,240	473,384	396,497
資産運用収入	220,266	248,653	238,144	202,123	166,281
資産売却差額	0	2,040	35,112	149,676	251,442
事業収入	16,608	10,772	11,918	13,448	11,070
雑収入	105,729	88,809	159,697	160,116	256,267
帰属収入合計	5,044,305	4,791,809	5,065,188	4,974,318	4,933,403
基本金組入額合計	△ 358,550	△ 326,491	△ 344,137	△ 326,861	△ 334,947
消費収入の部合計	4,685,755	4,465,318	4,721,051	4,647,457	4,598,456

消費支出の部	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人件費	2,170,774	2,171,127	2,180,245	1,905,217	2,168,630
教育研究経費	2,174,944	2,369,228	2,347,132	2,181,718	2,349,178
管理経費	764,799	818,005	801,143	533,634	451,288
資産処分差額	78,122	7,396	10,096	8,126	6,510
徴収不能引当金等繰入額	129,565	28,149	21,335	34,266	8,348
消費支出の部合計	5,318,204	5,393,905	5,359,951	4,662,961	4,983,954
当年度消費収支差額	△ 632,449	△ 928,587	△ 638,900	△ 15,504	△ 385,498
前年度繰越消費収支差額	1,656,908	1,024,459	95,872	△ 541,978	△ 557,482
基本金取崩額	0	0	1,050	0	0
翌年度繰越消費収支差額	1,024,459	95,872	△ 541,978	△ 557,482	△ 942,980

【消費収支計算書関係比率の推移】

(%)

財務比率	算式(×100)	評価※	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	43.0	45.3	43.0	38.3	44.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	43.1	49.4	46.3	43.9	47.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	15.2	17.1	15.8	10.7	9.1
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	113.5	120.8	113.5	100.3	108.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	～	80.5	84.5	82.2	79.0	77.1
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△	△ 5.4	△ 12.6	△ 5.8	6.3	△ 1.0

※ 評価欄 △:高い値が良い ▼:低い値が良い ～:どちらともいえない

【貸借対照表】

(単位:千円)

科目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
固定資産	33,658,170	33,757,606	31,904,022	31,721,288	32,467,275
流動資産	2,597,420	1,599,155	3,112,440	3,668,358	2,921,558
資産の部合計	36,255,590	35,356,761	35,016,462	35,389,646	35,388,833
固定負債	1,057,209	1,043,136	1,053,245	992,303	994,601
流動負債	830,229	547,569	491,924	614,693	662,133
負債の部合計	1,887,438	1,590,705	1,545,169	1,606,996	1,656,734
基本金の部合計	33,343,693	33,670,184	34,013,271	34,340,132	34,675,079
消費収支差額の部合計	1,024,459	95,872	△ 541,978	△ 557,482	△ 942,980
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	36,255,590	35,356,761	35,016,462	35,389,646	35,388,833

【貸借対照表関係比率の推移】

(%)

比率名	算式	評価※1	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金※2}}$	△	94.8	95.5	95.6	95.5	95.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	312.9	292.0	632.7	596.8	441.2
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金※3}}$	▼	5.5	4.7	4.6	4.8	4.9

※1 評価欄 △:高い値が良い ▼:低い値が良い

※2 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額

※3 自己資金＝基本金＋消費収支差額